

2022年度 社会学演習 ゼミ概要

● 天田ゼミ (天田 城介)

担当教員：天田城介

曜日・時限：水曜日・5 時限 (17:00～18:40)

研究テーマ：自由

ゼミの特色：各自の関心・テーマに応じて研究を進め、ゼミ論文や卒業論文にまとめると同時に、夏期に実施するインテンシヴなフィールドワークを踏まえて社会的マイノリティの視点から戦後史を捉え直すプロジェクトを進めています。

なお、2022 年度のゼミ全体のテーマは「戦後日本社会における生存の現代史」としました。2016 年度は「ドヤ街」と呼ばれた釜ヶ崎や在日コリアンの集住地区である生野などを、2017 年度は福岡県における生活困窮者支援や炭塵爆発被害者家族（女性）たちの運動を、2018 年度では沖縄において女性や障害者による反戦・平和運動を、2019 年度は釜ヶ崎や生野における NPO 法人の実践を、2020 年度は京都の被差別部落のまちづくりを行う市民団体と在日ヘイト・スピーチと闘う市民団体・研究者などの実践を、2021 年度は首都圏で生活困窮者支援を行っている NPO 法人などの実践を調査し、当事者や支援者たちの言葉に耳を傾けました。私のゼミでは、そのような社会的少数派の視点から戦後史を読み解きます。また、上記以外では問題関心の近いメンバーでグループを組み、各グループでテーマを決め、フィールドワークに臨んでいます。このように積極的に社会の声に耳を傾け、ふだんは見えないものを丁寧に見るゼミにしています。

天田ゼミでは、フィールドワークなど調査をするゼミ生には現場からこそ徹底的に学んでほしいと思っていますし、文献や資料をもとに分析したいと思うゼミ生には徹底的にそれらを渉猟してほしいと思っています。いずれにしても、最初から「〇〇はこういうことだろう」と決めつけず、現実を踏まえた上で、大胆で自由な想像力をもって思考してほしいと思っています。多様なゼミ生による大胆で自由な想像力を大事に、楽しいゼミにしていければと考えています。このように一人ひとりが主体的に作り上げていくゼミです。

※不明な点があれば、天田 (josuke.amada@nifty.com) に遠慮なく問い合わせください。

● 首藤ゼミ (首藤 明和)

(1) テーマ：社会変動論、グローバリゼーション論、家族・地域・コミュニティ・エスニシティ、若者・サブカルチャー研究、宗教・信仰、意味論、社会システム理論など。

(2) 卒論テーマ：自由です。研究方法は、フィールドワーク、インタビュー、ドキュメント分析、文献研究などとなります。

(3) 運営方法：①各自設定した卒業研究のテーマに取り組みます。また研究テーマに応じてグループ分けをし、継続してお互いが切磋琢磨できる研究環境を作ります。②前期は、各自の研究テーマに沿った基本文献の講読を行います。夏休みのフィールドワークに向けた準備も行います。③後期は、夏休みのフィールドワークの成果を発表します。また、卒論の基本構想を固めます。④3年生は卒論中間報告として「ゼミ論」(4000字程度)を執筆します。

(4) 自主参加プロジェクト：任意参加型の調査プロジェクトを計画しています。①中国雲南ムスリム研究、②長崎平戸・中国福建・台湾台南を中心とした媽祖（航海女神）研究、③大阪 JR 環状線沿線（大正・芦原橋・新今宮・天王寺・鶴橋）などです。これら自主参加プロジェクトを通じてフィールドワークを行い、卒業論文を作成することもできるよう準備しています（現地情勢により調査を実施しない年もあります）。

(5) メッセージ：考え続けることを楽しみたいと思います。ちょっとほかのひととは違って自分は変わっているかもしれないと思っているひとには合っているかもしれません。やりたいことがあるのだけれども、どうしたらよいのか、というひとには、そうしたご自身のテーマを卒論作成でも活かせるよう、時間をかけてご相談していきます。

● 新原ゼミ (新原 道信)

新原ゼミ生は、〈地域に寄りそい、ひとにこころを寄せるフィールドワーク〉を学び、「うまくいかないときでもなにかは出来る」力をつくってきてくれました。そのおかげか、「コロナウイルス感染拡大」のもとでも、オンラインと対面ハイブリッドのゼミを工夫して行い、いくつか実際のフィールドワークも実施することが出来ました。いまゼミ生は、都市・地域、コミュニティ、文化・メディア、家族、生きづらさ、病、ケア、ボランティアなど、自分が考えたい様々なテーマで卒論・ゼミ論に取り組んでいます。新原ゼミでは様々なタイプのひとを歓迎します。ともに場を創っていただけたら幸いです。

以下は、ゼミ生が作成してくれたゼミの概要です：「新原ゼミは、文学部・大学院・FLP 地域公共・国際協力の4つのゼミによって構成され、ゼミ・学部の枠をこえた交流・協力をしています。これまで前期はグループワークを中心とした班での調査、夏休みに4つのゼミ合同での合宿、後期は論文執筆を行ってきました。これらの活動の計画をゼミ生自身が考え運営しています。さらに新原先生が受け持つ4つのゼミ同士での活動として、自分の興味関心を院生や他のゼミ生に気軽に相談できる合同プロジェクトや、団地のお祭りなどのイベントに参加し、地域に継続的にかかわる立川プロジェクトなどの有志の活動もあります。ゼミ生の研究テーマは多岐にわたっており、多様な価値観に触れ学びを深めることができます。ガチゼミ(!?)と噂されておりますが、すでに社会に出た先輩から、“危機の瞬間に力を発揮するひとを育てるゼミだったと思います。だからこそたいへんなときにはみんなの声をききたいと思えるのかもしれない”と言われていきます。ぜひ勇気を出してゼミを訪ねてみてください。温かく優しいゼミ生がお待ちしております！」

※. niihara@tamacc.chuo-u.ac.jp までご連絡いただければ、個別に相談も可能ですし、卒業生からの声や閲覧資料についてもお伝え出来ます。以下の url (<https://sociology.r.chuo-u.ac.jp/member/detail/76>) もご参照ください。

● 野宮ゼミ

I. ゼミの特徴

- ・ グローバルな社会現象：先進国と途上国とでの貧困、子どもの問題、移民労働者、難民や地域紛争、地球環境、ユニセフなど国際機関の活動など、国際社会現象を扱います。
- ・ 海外で本当の社会調査！！：2020、2021 年度はコロナで無理でしたが、それまでは、タイ(2016)、フィリピン(2017)、そしてベトナム(2018)そして 2019 はカンボジアでした。2022 年も、可能なら海外調査をしたいと考えています。
- ・ プロジェクト型の授業：各自の興味関心をもとにグループを作り、研究対象の選定から調査を行います。
- ・ 多様な学生の参加：他学部や他学科など、異なるバックグラウンドを持つ学生がゼミに参加します。
- ・ あらゆる研究技能の向上：「読む」、「書く」、「議論する」、「プレゼンする」の 4 技能すべて学習します。

II. ゼミの運営方針

(1) グループ活動：皆で創る

- ・ 主体性・自主性：
 - 誰かが創るのではない。自分がコミットして創る。
- ・ 協力する：
 - 自分ができる仕事をする。
 - 役割分担をしない。全体を皆で作る、その中で自分ができる仕事をする。
- ・ リーダーを作らない。
 - ゼミ長＝なし。

(2) 期待する学生の姿：こんな個人になってもらいたい！

- ・ 各人が「千差万別」であることを理解する
 - それぞれ、異なる力を持つ⇒ある場面では弱い。しかし別の場面では強い。それぞれが異なる場面で活躍する。
- ・ 周囲の人を公平に見る
 - 誰とでも、対等に話ができ、対等に議論できるひとになる。
 - 隣の人を尊敬できる人になる。偉い人には「えらい!」、すごい人には「すごい!」、頑張る人には「がんばるね!」と言える人になる。
- ・ 自分で縮こまらない
 - 最初から、他の人の後ろに立つな。皆同じ。皆が一からのスタート。
- ・ 人を助ける：
 - グループ活動などで、困っている隣の人をたすける自分になる。
- ・ つきつめる：
 - みんなと徹底的に議論して、問題をどんどん追っていく。

III. どんな人にピッタシのゼミか

- ・ みんなと沢山意見交換して、一緒になって何かを創りたい人。
- ・ 本当に、自分の好きな事柄について（できれば）海外で調査をしたい人。
- ・ 批判的に考える、自分の考えを提示するためのトレーニングをしたい人。

(次ページへ続く)

VI. どんな人には合わないゼミか

- ・ 日本社会全体の問題や海外で起こっている事柄など、グローバルな視点、国際的な視点に興味のない人。
- ・ 消極的参加をしたい人。教室の隅に隠れていたい人。ずーっと黙っていたい人。
- ・ ゼミ調査合宿など、みんなでの活動が嫌いな人。
- ・ 90分で授業を終えたい人。
- ・ オンラインで授業を済ませたい人。

以上

● 矢野ゼミ (矢野 善郎)

①社会について理論的に考え、②様々な問題について活発に討論することが二大伝統です！ 具体的には、毎週①各自の卒業論文の構想について自由に報告し、それを元にして議論します。②合宿・公開ディベートでは、社会学的な討論の経験を積みます。

重要な注意：卒論を書くことを前提にしたゼミです。（ゼミのみんなでアイデアをだし合い、2年で良い作品を仕上げましょう！3年の時には卒論の中間発表となるゼミ論を書きます）。

その他の特徴：論文テーマ自由・出席厳守・飲食自由・差入歓迎・合宿参加必須

ここ2年を例外とし、たいがい合宿を行ってきました。2014-2019年は海外で合宿し韓国・台湾・タイ・インドネシアの大学生と議論してきました。2022年度については、是非ゼミで議論して決めたいです（議論して決めるのが伝統）

矢野ゼミ恒例 公開ディベート 2022年1月17日（月） 10:50～13:20

教室＋オンライン 計2試合（※途中入退室可）

今年は、日本社会が「外国人移民・労働者」をテーマにし、班に分かれ、政策提案しディベートします。観客からの質問時間もあります。是非、議論に参加しゼミ生を鍛えてやって下さい！教室・リンクは後日 社会学HPなどに掲示

● 山田ゼミ (山田 昌弘)

1. 今年のテーマは、ジェンダー論の現在にします。

近年、社会における女性のあり方が変化するにつれ、男性の立場も変化しています。仕事で活躍する女性が増えるとともに、男性の立場が脅かされているのではないかという意見もあります。更に、LGBT に関する理解が進むにつれ、男は仕事、女は家事という性別役割分業だけの話だけではなく、女らしさ、男らしさとはなにか、そして、男女関係にも影響を及ぼしています。新たな日本社会における新たな男性性、女性性について考えていきたいと思います。

2. ゼミの進行

最近、ジェンダー論に関して特に男性の立場からわかりやすい本が何冊も出ています。その中で、まず、杉田俊介『マジョリティ男性にとってまっとうさとは何か』(集英社新書)を輪読します。そこに出てくる映画等も見ながら、男性とは何か、女性とはなにかについての理解を深めます。

夏休みに合宿研修(新型コロナが治まり可能であれば)を行います。夏休み前には、各人の興味関心にしたがった課題(本または論文のレポート+フィールドワーク・調査など)を出します。

後期は、本の講読を行い、後半部には三年生に夏休みの実際のフィールドワークの成果を順次各自で発表し、卒業論文執筆に備えます。

3. 希望

研究テーマは、「家族」「恋愛」「ジェンダー」「若者問題」に関係しているものが望ましいです。特に、多様化している婚活(アプリの出会い、中高年婚活)、バーチャル家族(ペットを家族と見なす、アイドルに恋している、レンタル家族)、新しい家族の試み(専業主夫、同性愛結婚、シェアハウス、グループホームなど)などに興味を持っている人であれば、うれしいです。

あと、私は 2022 年に高齢者となります。年寄りをいたわっていただける学生を望みます。

● 小熊(おぐま)ゼミ (小熊 信)

ゼミ生が個々で取り組む卒業論文執筆に向けた研究と並び、3・4年生でともに取り組む共同研究の二本立てで運営しています。

担当教員の小熊の専門領域は、労働社会学、産業社会学です。しかし、共同研究では私自身の専門領域を超え、ゼミ生と関心をともにできるテーマをさぐり取り組んできました。

コロナ禍前は“地方都市における産業振興”を研究テーマとしてきましたが、この2年は、コロナ禍だからこそ取り組める、取り組む意義のあるテーマをともに考えてきました。検討の末、2020年度は卒業生へのインタビューにもとづくコロナ禍における働き方、2021年度はゼミ生の想いを受け、学生へのアンケートにもとづくコロナ禍における学生生活を研究テーマとして取り組んできました。

2022年度の共同研究はコロナ禍次第ですが、原点回帰し、可能な範囲で地域に出て、フィールドワークに取り組みたいと構想しています。共同作業の得意、苦手は問いません。他者ととともに共同で取り組むことに可能性を見出したい。そんなことに魅力を感じる方を歓迎します。

なお、小熊ゼミは2022年度までになりますので、新3年生(現2年生)は2023年度は別のゼミにて卒業論文・卒業研究論文を執筆することになるので、その点ご理解の上、選択してください。

● 佐藤ゼミ (佐藤 恵 [さとう けい])

担当教員の本務先は法政大学キャリアデザイン学部です。地域社会学、福祉社会学、犯罪社会学、社会調査（質的調査）を専門分野としています。

最近の研究テーマは、震災復興支援、障害者支援、犯罪被害者支援です。これらのテーマを通底する問題意識は、困難を抱える当事者とそれをサポートする支援者との「支え合い」についての研究、すなわち「支援の社会学」ということになります。

なお、関連するテーマとして、以下も追究しています：排除／包摂、排除された人々のアイデンティティ・マネジメントとその支援、異質性への対処／共生、ボランティア／NPO、ピア・サポート／セルフヘルプ・グループ等。

ただし、以上は、あくまでわたしの専門分野・研究テーマであって、もちろんこうしたテーマで論文を書きたいかとも大歓迎ですが、当ゼミとしては、興味の持てるテーマを自分で選定することも重要な学びと考え、社会学的な視点・発想に基づいていけば、各自のゼミ論・卒論のテーマは自由としています。

ゼミ活動の具体的な内容としては、①ゼミ論・卒論作成（構想発表＋ディスカッション、論文執筆）、②ニュース記事等に基づくディスカッション、③ゼミ合宿、④イベント・懇親会等です（2020年度・2021年度はコロナ禍のため③④は割愛）。ゼミの運営方法に関しては、教員主導ではなく学生主体を原則として、そのつどみんなで話し合いながら決めていきたいと思います。

なお、佐藤ゼミは2022年度にて活動が終了となります。新3年生（現2年生）は2023年度には別のゼミで卒業論文・卒業研究論文を執筆することになりますので、その点をご理解の上、選択してください。

● 田島ゼミ (田島 博実)

1. 当演習（田島ゼミ）では、それまでの2年間の学習を活かしながら、履修者一人ひとりが自分の問題関心・問題意識を研ぎ澄ませて、意欲的・積極的に意見交換や、調査、フィールドワークに取り組み、ゼミ論文・卒業論文（または卒業研究論文）を完成させることを目指しています。

2. ゼミの調査研究活動の統一テーマとして、「現代の社会変動と地域（自治体等）、組織（企業、NPO等）、個人の対応」を設定します。これにもとづいて、経済・政治・文化・社会制度など各社会領域の変動、地域社会に関わる諸問題、企業・行政・NPOなど多様な組織の活動、勤労者・消費者・生活者の意識・行動を対象（研究テーマ）に選んで、調査研究活動を行ないます。調査研究のテーマは、幅広く自由に選択することができます。

3. 前期・後期の内容、スケジュールは以下のとおりです。

○前期は、主に文献・テキストにもとづく学習、報告、意見交換をします。取り上げる文献等は、履修者の希望により決めます。

○後期は、3年生は、小グループもしくは個人研究方式で研究テーマを決めて、調査やフィールドワークを行ない、結果報告と意見交換をして、「ゼミ論集」にまとめます。4年生は、卒業論文および卒業研究論文のための文献研究、調査やフィールドワークを進めて、その経過報告と意見交換を行ないます。

○ゼミ活動の成果は、毎年度『ゼミ論集』としてまとめています。

4. 田島ゼミは2022年度までになりますので、新3年生（現2年生）は2023年度は別のゼミにて卒業論文・卒業研究論文を執筆することになるので、その点ご理解の上、選択してください。

以上
